

要 約

- 平均尾叉長 38.1 ~ 65.1 mm のハマフエフキの種苗を 80 千尾生産した。
- 第 1 次生産回次の歩留まりは 1.7 %、第 8 次生産回次は 1.1 % の歩留まりであった。
- 飼育初期にビブリオ病と滑走細菌の感染症が発生した。
- 中間育成は大宜味村塩屋湾で行った。
- 中間育成の歩留まりは 51.2 ~ 85.6 % であった。
- 中間育成高歩留まりの要因は種苗の大型化、飼育日数の短期化、収容数の低密度などが考えられる。
- 平均尾叉長 80 ~ 98 mm の人工種苗を塩屋湾内と国頭村辺土名漁港の 2 カ所に計 56,650 尾放流した。
- 辺土名漁港内では放流後に音響給餌による管理を試みた。
- 音響給餌機に蝟集した放流魚の消化管内容物から葉上動物が多く見られた。